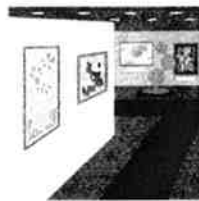


アート・イン・ホスピタル ギャラリー古今

ギャラリー古今は、洗足池病院の入り口に併設されたギャラリーです。病院とギャラリーは互いに無関係な施設と受取られる方もおられるでしょう。しかし、本質的に人の心に関っているという点で、根っこには共有する大切なものがあります。



古今では、患者様のみならず広く一般の方を対象として、美術を展示することで、アート・イン・ホスピタルの新たな可能性を探っています。

展示は、現代美術と仏教美術が主要なものです。これらは時間軸で捉えるならば、最も新しい時代と最も古い時代、両極にある美術といえましょう。古い時代には神や何者かに対する畏敬の念が刻まれ、新しい作品には作者のやむにやまれぬ衝動が作品を作る源になっています。前者は時間というふるいにかけられ、また後者には未知なる新しい美がそこに内包されています。

ここではそれらの美術を一つの空間に展示し、さらに病院という特異な環境の中で、固有な場の在り方を追求しております。企画展は、凡そ年に2～3回、その他の期間は常設としてコレクションなどを展示しています。詳しくは、ギャラリー古今のホームページをご覧ください。

(池の台・洗足池病院 佐藤春喜院長)



小池小学校クラブ活動の思い出

今回、自分の小学校時代を思い出すため久しぶりに卒業アルバムを開いてみた。

今は全く新しくなった校舎になんとか見慣れてしまっていたものの、アルバムを開いたとたん、「あっ、小池小学校だ!」とそこに写っていた旧校舎が私には母校であり懐かしかった。児童数も多かったので一人一人を思い出すのは難しいがアルバムからは楽しく過ごしたクラスの仲間達、一生懸命だった運動会や学芸会など、いろいろな学校生活や行事の様子が伝わってきた。同時に少しずつ思い出も引き出されてきた。

そんな中で、ずっと思い出として残っていたことがある。私は5、6年とクラブ活動で「器楽クラブ」に所属していた。

担当はアルトサックス。ピアノを習っていたものの、初めて手にする楽器に不安もあったと思う。でもそんな気持ちもあったという間になくなっていった。クラブの担当の先生のとても熱心な指導があったからだ。器楽クラブは週1回の活動日の他に毎日早朝練習を行っていた。

先生はとにかく厳しかったが、それでもみんな毎日頑張って練習をし先生についていった。厳しさの中にも時にはおもしろく音楽の楽しさを教えてもらっていた。その結果、一つの曲の演奏が完成した時の達成感は何よりも嬉しく気持ちの良いものだった。そして学校外での演奏会にも参加をし、良い経験と思い出になった。私はこの器楽クラブを通して日々努力して積み重ねることの大切さを学んだ。

小学校時代の思い出は、一つ一つが成長する上での多くのことを学びそして身につける場でもあったのだと思う。

(笹丸・Y. S)



編集後記

あけましておめでとうございます。

いよいよ新たなうさぎ年がスタートしました。皆様にとって、今年はどうなる年になるのでしょうか。今年こそ明るく楽しいニュースの多い年になってほしいものです。

「ふれあい雪谷」も21年目を迎えました。身近な所で起きた、ほっとするでき事、心暖まる記事などありましたら、是非お寄せ下さい。編集員一同心よりお待ちしております。

(上池上・田中紀子)

ふれあい雪谷(創刊・平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
 (1月・新年号/4月・さくら号/7月・あさがお号/10月・もみじ号/の1日発行)
 [発行日] 平成23年(2011年) 新年号 1月1日(通巻・第81号) 発行
 [発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] 「ふれあい雪谷」編集委員会
 [連絡先] 雪谷特別出張所
 〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

ふれあい
雪谷

平成23年 1月 新年号 通巻第81号

平成23年



南雪谷 山上ヤエさん(90歳)の作品

私の健康法 40

笑顔で健康に

常に健康な体でありたいと願っている私ですが、週1回ストレッチャ的な体操教室に通っています。それ以外の日はNHKのテレビ体操を録画して自分の都合の良い時間にしております。たったの10分間ですが毎日続けることが大切だと思います。普段何気なくやっている事はテレビを見ている時コマシヤルの間に手や足の指を動かして血液の循環を良くしています。寒い冬などじっとして縮こまっていると益々寒くなりますのでこれはお勧めです。エスカレーターやエレベーターもなるべく使わず、階段を利用するようにしています。

色々書き連ねましたが「あなたの健康法は?」と聞かれたら究極の答えは「何時も笑顔でいることです」と答えると思います。笑顔でいると身も心も健康になる気がするからです。



笑顔に勝る良薬なし!!

(石川台・越野千代子)

12歳 年男・年女 今年の抱負

12歳

もうすぐバレエの発表会です。一つクラスも上がり、練習に行く回数も増えて大変です。トゥーシューズでのレッスンも増えて、足が痛くて大変です。でも、わたしは、バレエでしか会えない友達といっしょにおどることができるので、とてもうれしいです。

小学校生活、最後の発表会。みんなが感動するような発表会にしたいです。
(希望ヶ丘・洗足池小 真木実莉)

中学校に入学したら、勉強も部活も大変になり、楽しいことも辛いこともあるかと思うけど、一生後悔しないようにしたい。そして、次に年女として振り返った時に、過去の自分に自慢できるような仕事についていたい。未来の自分にもがんばってほしいと思う。

(南雪谷・雪谷小 黒木詩音)

48歳

プロ野球現役最年長、工藤公康投手も年男。(今シーズンも現役!?) 高校まで野球部だったせいか、自分の生き方を野球と対比させてしまう。40歳を過ぎ、管理的な立場になれと先輩や同輩に言われて久しい。でも、最前線のプレーヤーこそ醍醐味。

“そんな選択があってもいいでしょ”と時々妻に話している。

(笹丸・森下哲夫)

60歳

「これからの自分へ!!」

12年前大田区報特別号で新春座談会「今大切に育んでいるもの」に参加する機会があり、年代の違った方々と意見を交わしました。

参加された方々に触発され、自分なりに12年後の自分を見詰めましたが、あの時の「大切に育んでいるもの」が少しもぶれていないと確信しています。35歳から始めた和太鼓を通じて人と人との繋がりを育んでいく事。その為には自分自身も太鼓道をしっかり身につける事。

去年8月新宿紀伊国屋ホールで行われた「和太鼓大元組10周年記念コンサート」でプロとしての演奏活動は終りにしましたが、これからも人と人との繋がりを大切にする太鼓道を続けます。12年前の座談会の締めで私の言った「育むとは相手も自分も心が豊かになる事!」の言葉を信じて。
(石川台・野崎妙子)

上池台に生まれ60年が経ちます。当時の住所は上池上町?番地でした。家の周辺には畑、野原があり季節感がありました。街灯は所々にしかなく、晴れた冬空は満天の星空で美しいものでした。今では家マンションが建ち並び自然が消え、時の流れを感じます。還暦を迎え今日まで学んだ人生を活かし、60歳を境に新たな人生のスタートにしたいと思います。
(上池上・小野田晴美)

新成人

成人になって

私は、雪谷で生まれ育ち20歳になりました。昨年、大学の友好関係のあるカルフォルニア州立大学へ2週間ライフサイエンスの基礎を学ぶために海外研修に参加し、アメリカの家庭に初めてホームステイをして、アメリカの人々がどのような考え方、視野を持っているのかを多に学ぶ事ができました。また車の運転免許の取得と自分なりに満足ができました。

現在、大学では生命科学と言う学科に進み、地球環境が変化すると遺伝子にどのような影響をおよぼすかを勉強しており、中学校、高校で学んだ科学より現実に近いものとしていかに環境が大切なものかと考える事ができます。

将来は、バクテリアの光合成を利用したCO2固定化装置の作製に携わる仕事をしたいと思っています。

今後いろいろな人から大切なことを教えていただきそれを伝える事のできる人間として成長したいと思うこのごろです。

(東中・T. S)



72歳

昭和14年3月の早生まれ、小池小1学年の時、5月24日の空襲で校舎も我家も全焼。2学年まで赤松小での間借り授業、ひもじかった幼少時代。サラリーマン時代はモーレツ社員として家庭も顧みず働き、ゴルフとマージャンの出来ぬ奴はサラリーマンにあらずの教えを守って、たまの休みは今も続く仲間とプレー。

定年退職後も、国の外郭団体に上がり?生活を約10年、やっとリタイヤしてから自分の時間を大切にして、富士山撮影にプロカメラマンの指導を受けながらこの1枚を求め、また積雪を待って孫とのスキー行きを楽しみに「我が人生に悔いなし」を地で行きたいと、今年も元気な1年を過ごしたいと思っています。
(小池・原 龍興)

84歳

私は昭和2年に生れた兎年の年女です。10歳の頃から戦争がはじまり青春時代は戦争の真っ盛りでした。今は戦争のない平和な毎日を通す事が出来とうとう84歳となり早く曾孫の生れるのを待って居ります。

小池の釣堀が美しい小池公園に生れかわり散歩するのに最適です。住みごちの良い上池台近辺が大好きです。今年も佳い年でありますように。
(池の台・田代とも子)

自治会だより

東雪自治会・紹介

昭和3年池上線が五反田、蒲田間に全面開通してから東雪谷の町は大きく変わり、耕地整理(今の区画整理)、同潤会住宅の建設、昭和9年に荏原病院が建築されました。

昭和12年に東京市の方針で町会組織が出来、雪ヶ谷東部町会(今の雪谷東中自治会と東雪自治会を合わせた地域)が発足しました。

戦後町会制度は無くなり、町会で所有していた敷地(借地)と事務所は、昭和23年に大田区へ無償で寄付しました。

昭和27年に新しい住民組織が出来、東雪自治会が発足しました。

現在の東雪自治会の地域は、東雪谷3丁目の一部と4、5丁目の大部分、仲池上1丁目の一部で、世帯数約300の世帯、人口約6600人で最近では建売住宅やマンションの建設で増加の傾向にあります。

組織は総務、経理、福祉厚生、女性、青少年、交通、防犯、文化、街灯の9つの部と防災対策委員会、協力団体として公園ボランティア、祭礼実行委員会があります。

行事は行政からの依頼された事項の他、自治会独自の行事として、子供夏まつり、チャリティ餅つき大会、お年寄りへの寿祝品の配付、敬老食事会、料理教室、文化講演会、防災訓練、防犯パトロール、住宅用火災警報器・救急医療情報キットの普及促進等に取り組む、楽しく、安全・安心な街づくりに取り組んでいます。
(東雪・永久保孝治)



俳句

餅花の数ほど夢を点しけり

大寒や湯槽に浮かぶ生命線

地球儀のつぶやきひとつ春隣

(東中・岩波博庸)



短歌

冷えしるき朝のさ庭の霜柱

さりさりと立つ音を楽しむ

生誕十日 曾孫はばあ婆の指握る

温き絆の極はまりに遇ふ

(東雪・清水はりえ)